

ELT の G-Switch の不具合について（情報提供及び注意喚起）

1. 概要

平成 29 年 3 年に発生した長野県消防防災航空センターが運航するベル式 412EP 型の墜落事故について、運輸安全委員会より事故報告書が公表されました（平成 30 年 10 月 25 日付）。当該報告書において、事故機に装備していた ELT（Emergency Locator Transmitter）は、墜落時に作動していなかったことが報告されています。作動していなかった原因は、ELT の G-Switch が固着していた可能性が考えられるとしています。

2. G-Switch の不良について

当該 ELT の G-Switch の構造はごく一般的なもので、円筒形のケースの中に、球体に繋がれたバネがケースの一端に固定されており、一定以上の加速度が生じると球体がケースのもう一端に接地することで通電し、ELT を作動させるものです。

過去、同様に作動しなかった ELT を分解したところ、球体がケース内で固着していたことが確認されています。

3. 情報提供

当該 ELT の製造者は、既に、上記の固着事例を確認しており、2014 年 6 月に技術情報を発行し、改良型 G-Switch への換装を推奨しています。

なお、ELT の整備マニュアルでは、G-Switch の作動を確認する点検が設定されていますが、特に G-Switch については、経年劣化により固着する可能性があり、定期的な点検が重要とされているのが一般的です。

また、事故機に搭載されていた ELT については、点検は実施していたものの、記録が残されていませんでした。当然のことながら、点検を含む整備記録は、航空機の安全を担保する上で重要な要素となります。

4. 注意喚起

以下について改めて注意喚起します。

- 航空機（装備品を含む）については、その製造者が製品の信頼性・安全性を向上させるため、改修等を指示・推奨する技術情報を発行します。普段から、製造者等が発信する情報の確認を心がけ、内容について十分に検討してください。
- 装備品の取付け、運用及び点検は、必ず製造者が発行したマニュアルに従い実施してください。
- 点検を含む整備作業を実施した場合は、確実に記録を残してください。

また、あわせて、リーフレット「ELTの適切な運用と措置について」もご確認ください。

（リーフレットはこちら：<http://www.mlit.go.jp/common/001258422.pdf>）